

宇道河建第 128号
平成20年(2008年)10月21日

国土交通省道路局長 様

宇部市長 藤 田 忠 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件について、
別紙様式①～④のとおり回答します。

宇部市土木建築部道路河川建設課

担 当 : 原 田

電 話 0836 (34) 8417

FAX 0836 (31) 1662

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

道路は、地域産業・経済を支える最も重要な社会基盤であるとともに、特に、公共交通機関の整備が不十分な地方にとっては、道路交通へ依存せざるを得ない状況であり、少子高齢化を迎え、安全で安心できる快適な市民生活を実現し、個性ある地域づくりを進めるためには、広域にわたる地域間交流・連携強化の中核を担う地域高規格道路の整備、県内の主要都市を縦横断する国・県道等幹線道路の整備、地域の日常生活に密着した生活道路の整備を、より一層、計画的かつ効率的に推進することが緊急かつ重要な課題となっている。

このような状況において、本市も年々厳しさを増す財政状況の中、「第三次宇部市総合計画後期基本計画」に掲げた重点戦略プロジェクトや「新市建設計画」に掲げた重点事業を着実に推進することで税源培養や雇用の拡大を図るべく取り組みを行っているので、この度の新たな中期計画策定に当たっても、地方の意見をより身近なものとして聴いていただき、重点的な予算配分を念頭に取り組んでいただきたい。

また、国の機関において維持管理に要する予算が年々厳しくなっていると聞かが、末端の地方公共団体である市町村へ押し付けることなく、国の責任において維持管理面においても十分な予算配分をしていただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

本市は、税収の伸び悩みに加え、ここ数年の三位一体改革による一般財源不足や扶助費など義務的経費の拡大により、財政状況は年々厳しさを増している状況であるが、少子高齢化社会に持続的に対応していくために、第三次宇部市総合計画後期基本計画に掲げた重点戦略プロジェクトを着実に推進することとしている。

また、本市は平成16年11月に合併し、新市の一体感を醸成するために「新市建設計画」を策定し、その中に宇部湾岸線などの環状道路網や地域間のアクセス道路を中心に整備することとしている。

<地域産業の創造・育成>

地域間競争に打ち勝ち、地域経済を活性化させるための条件整備として、「地域高規格道路」等幹線道路体系の基盤整備及び県内でも特に交通渋滞が著しい「厚南地区」の渋滞対策が急務となっている。

<環境共生都市の実現>

グローバル500賞受賞都市として、産学官民が協働して、地球規模での環境問題や循環型社会の構築などに幅広く取り組み、環境共生都市づくりの推進に努めている。

<新市建設計画>

旧楠町と宇部市街地を結ぶ連絡道路について、県道の拡幅と合わせて市道の新設改良事業を実施することで事務調整が整い、平成21年度からの新規事業採択の申請を行っているところである。

また、本市の北部地域を横断する国道2号は広域幹線道路であるとともに、その多くの区間において通学路となっているなど市民生活に欠くことのできない重要な路線であるが、線形が悪く交通事故が多発している箇所や歩道の整備も遅れており、交通安全対策として、早期整備の要望が強い。

○課題

年々深刻となる一般財源不足や財政健全化の観点からの地方債抑制による建設事業の総額抑制など、厳しい財政状況の中、重点戦略プロジェクトを計画どおりに推進するためには、「道路特定財源」が一般財源化された場合も地方道路譲与税等これまでの配分規模を交付税と別枠で確保するとともに、「地方道路整備臨時交付金制度」の存続、更には地方への配分増が望まれる。

<地域産業の創造・育成>

地域高規格道路「山口宇部小野田連絡道路」の内、本市の「宇部湾岸道路」の早期完成が望まれている。

<環境共生都市の実現>

温室効果ガス削減に向け、市内でも交通量の多い踏切に信号機を設置することについて関係機関と協議の上、実現に向けた取り組みを行っていきたい。

<新市建設計画>

旧楠町と宇部市街地を結ぶ合併道路については、平成21年度からの新規事業採択を受け、合併特例債の活用が可能な平成26年度までに完成する必要がある。

また、国道2号については、船木地区(茶屋交差点・歩道整備)など市民の安全・安心のために早急に整備する必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

<地域産業の創造・育成>

地域高規格道路「山口宇部小野田連絡道路」は、建設中の「萩・小郡間地域高規格道路」や主要国道2号、9号と連携することにより、広域幹線道路の一旦を担うとともに、「山口宇部空港」・「重要港湾宇部港」の利活用促進にも繋がり、地域産業・経済の活性化の起爆剤となる。

<環境共生都市の実現>

地域から発信する地球規模での環境問題の取り組みの一つとして、温室効果ガス削減のための踏切道への信号設置を実施することにより、グローバル500賞受賞都市にふさわしい豊かな自然に囲まれた環境共生都市づくりを推進し、「環境首都」の称号獲得を目指す。

<新市建設計画>

旧楠町と宇部市街地を結ぶ「合併道路」の建設や市民生活に直結した幹線道路「国道2号」の整備充実を図ることにより、合併による都市構造や住民生活の変化を視野に入れ、新市の一体感を醸成するためのまちづくりの指針とした「新市建設計画」の着実な促進を図る。

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	<p><地域高規格道路「山口宇部小野田連絡道路」></p> <p>県庁所在地の山口市と広域国際交通拠点である「山口宇部空港」及び重要港湾「宇部港」・「小野田港」とを連携することにより効率的な交通体系を形成するため、地域高規格道路の整備を県事業で進められている。</p>	<p>広域幹線道路の一旦を担うとともに、「山口宇部空港」・「重要港湾宇部港」の利活用促進にも繋がり、地域産業・経済の活性化の起爆剤となる。</p>	<p>「宇部湾岸線」は山口国体までの完成予定</p>
都市交通の快適性、利便性の向上	<p><合併道路の整備></p> <p>楠北部の万倉地区と宇部北部の厚東地区を結ぶルートとして、「県道宇部美祢線」の拡幅改良とともに「市道立熊沖田線」の新設改良を実施する。</p>	<p>平成16年の合併以降、懸案であった「合併道路」として新市の一体感を醸造するとともに、隣接する美祢市のアクセス道路としても確立できる。</p>	<p>合併特例債の期限となる平成26年度までの完成予定</p>
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	<p><国道2号の交通安全対策></p> <p>国道2号は広域幹線道路であるとともに、その多くの区間において通学路となっているなど市民生活に欠くことのできない重要な路線であるが、線形が悪く交通事故が多発している箇所や歩道の整備も遅れている。中でも船木地区の「茶屋交差点」は変則5差路の死傷事故率が県下でも高く、「船木大橋」も老朽化が進んでいる上に、歩道の幅員が狭く、段差があって危険な状況であるため、交通安全対策として直轄事業で整備が進められることとなっている。</p>	<p>頻繁に発生している国道2号における交通事故が減少するとともに、交通渋滞が緩和される。また、狭小歩道の整備や船木大橋を架け替えて歩道を整備することによって、高齢者や小中学生の通行の安全が確保される。</p>	<p>「茶屋交差点」及び「新川地区歩道整備」については、今年度事業着手</p>
地球温暖化の防止	<p><温室効果ガス削減に向けた踏切信号の設置></p> <p>大都市では環境対策で踏切の立体交差事業が実施されているが、地方都市においては、ある程度の交通量がある場合でも平面踏切が多く、立体交差化が進んでいない状況であり、遮断機のある踏切では、一旦停止によりノンストップ時における燃料消費量の3倍以上を消費している。</p> <p>こうした状況の中で、地方都市でもできる「温室効果ガス削減」の取り組みを進めることとしている。</p>	<p>宇部市内で最も交通量が多い国道190号、国道490号及び市道小串通り線の3箇所の踏切に信号機を設置することにより、電車が通過しない時に一旦停止の必要がなくなることで、年間約2,000tのCO2削減が見込まれ、更には道路交通の円滑化が図られる。</p>	<p>「宇部市踏切道の温室効果ガス削減検討会」(仮称)の立ち上げについて、国交省中国地方整備局を始め関係機関と調整中</p>
		<p>環境共生都市を目指す本市としては、是非とも他市に率先して取り組みたいと考えている。</p>	